

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」

プロジェクト

<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

### 迎春、本年も宜しくお願い致します。

プロジェクト  
メンバー

後列左より

平山 喜雄

細田 泰弘

矢野 智樹

前列左より

有田 五郎

白井 章司

藤村 博之

鈴木 美伸

## プロジェクトメンバーから

**教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー 使命感をもつことの大切さ**

最近、ある会合で、「仕事をしていく上で使命感って大事だよな」という話が出ました。役割意識と表現してもいいと思います。社会のために役に立つことをしたい、困っている人の状態を少しでも改善するお手伝いをしたい—大学という最高学府を出た人たちにはそういった気持ちを持って欲しいというのがその会合に出ていた10数人に共通した主張でした。

教育には多額の税金が使われています。私立学校にも文部科学省から補助金が出ていますから、税金が投入されているという点では同じです。「大学を卒業した若者が自分の生活のことしか考えないとしたら、あまりにも自分勝手ではないか」という意見も出ていました。

この会合の直後に、私のゼミの学生に使命感について議論してもらいました。すると、学生たちも自らの使命について考えていることがわかりました。親の姿を見ていて思うこと、アルバイト先での経験から考えたことなど、各人が社会との関わりを意識していることが明らかになりました。使命感は、勉学を進めていく原動力になるものです。教育の場だからこそ、こういった点も議論する必要があると思いました。

**特任教員 有田 五郎（ありた ごろう） 祝・箱根駅伝シード権獲得**

予選会通過チームの優勝で日体大だけが脚光を浴びているが、法政大学は前年不出場組から唯一来年のシード権を獲得するという快挙を成し遂げた。事前に他校の情報収集・分析、選手は自分のコンディション調整に加えてチームメイトと情報交換して当日のメンバー交代に備え、首脳陣は選手各自の体調掌握とレースの流れの読みを行った結果である。レース中には自分の位置取りや他校選手の様子を把握しつつ、自分の能力を最大限発揮する努力を行っていた。これ全てが情報管理と言える。我々が取り組んでいる「働く力」とは、文章力と情報のイン・アウトプット力である。学生一人一人で一生懸命に取り組む対象は異なるが、それぞれの持ち場における情報対応で自分を高める努力を積み重ねて欲しい、と改めて考えさせられる機会であった。

## プロジェクトメンバーから

### 特任教員 鈴木 美伸（すずき よしのぶ） 教材ビデオ撮影快走中

プロジェクトを取り巻く環境は目まぐるしく変わりますが、私たちの信念にはブレも迷いもありません。今年はこの2年間、積み重ねてきた知見を明確な形にしていくと同時に、広く外部に発信して参ります。私が担当のビデオ教材（専門商社編）は、今月からいよいよ撮影に入ります。業務中の企業の現場に入れていただくのは大変な苦勞を伴いますが、心ある企業の共感と支援をいただきながら進めております。こうした教材ビデオの制作工程そのものが、産業界のニーズをくみ取る作業になります。また、今回、撮影にご協力いただいている企業採用ご担当者の方は入社2年目の若手ですが、初めての仕事に四苦八苦しながら精力的に社内調整を進めておられます。この方の仕事ぶりも、教材ビデオにはピッタリのケースと言えそうです。

### 特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ） 打てば響く教員に

後期の授業においても、学生たちにはキャリアという視点から質的調査に取り組んでもらいました。提出されたレポートは、誤字脱字のチェック、意見や感想、そして評価理由を書き加え、「もうちょっと頑張りがかったら、再提出を認めます」と述べて、学生に返却しました。その結果、半数を超える学生が再提出してきたことにも驚いたのですが、普段から遅刻がちなある男子学生が真っ先に再提出してきたことには、正直ビックリしました。理由を聞いてみると、「悔しかった」、そして「調査に協力してもらった方に申し訳ないと思った」と答えていました。教員であれば、打てば響く学生を求めがちです。でも学生も同様に打てば響く教員（教育）を求めている、そう強く実感しました。新年度は、学生と響きあえるような授業運営を目指したいと思います。

### 事務局スタッフ 平山 喜雄（ひらやま よしお） 就活は「へび」？！

今年巳年です。干支の中でも、あまりいいイメージがないへびですが、古来より「神の使い」とされ人々の信仰を集めてきました。特に白へびは金運上昇にご利益ありと言われていています。初詣で所縁の神社にお参りした人も多いのではないのでしょうか。西洋ではアダムとイブをそそのかした存在としてへび＝悪魔と言われていますが、一方で生命力の象徴とされ、杖に1匹のへびの巻きついた「アスクレピオスの杖」は世界保健機関のマークにもなっています。また、仏教でもへびは脱皮することから「新生」「成長」「変化」の象徴とされてきました。まさに今の学生に求められている資質にピッタリですね。ということで、恐ろしいもの、不気味なものの象徴であるへびですが、このように一見恐ろしいものでも、見方や考え方を考えることにより逆にありがたいものとして再構築されるという見本ではないのでしょうか。古の人々の知恵に脱帽です。学生のみなさんも多面的なものの見方を身につけましょう。さて、3年生のみなさんは就職活動が始まっていますが、面接では「蛇に睨まれた蛙」にならないよう「蛇が出そうで蚊も出ぬ」ぐらいの大きな気持ちで臨んでいただければと思います。くれぐれも余計なことを言って「藪蛇」になりませんように。「蛇足」ですが、箱根駅伝において法政大学はめでたくシード権を獲得することができました。東京家政大学の学生さんからたくさんの応援メッセージをいただきまして、ありがとうございました。

### 事務局スタッフ 細田 泰博（ほそだ やすひろ） 部活は今しかできないんだよっ！

娘は中学1年生。4月から今までの中で驚いたこと。①「This is a pen」がない。英語は会話文が中心で、「ご趣味は？」から始まる。②国語のテストでヒヤリングがある。大学や企業研修で導入されつつある「日本語聴読解テスト」と概要は全く同じ。③部活（吹奏楽）が週3回しかない。①や②は「より実際に役立つものを」ということでしょうか。就業力の中高大連携に繋がるかも。ただ③は…。公立の中学なんですけど、「高校受験に備える生徒が多いので」とのこと。大学から始められる部活も、それはいっぱいあるけど「部活の仕方」っていうのもどこかで習った方がいいんじゃないかな…。「将来のことを考えろって言うけど、部活は…部活は今しかできないんだよっ」（『グラディオーツ』（山口なお美）より）。

#### ◆ 「働く力測定アセスメント」が完成しました

昨年度から本プロジェクトにて開発を行い、このたび完成いたしました就業力測定オリジナルアセスメント「働く力測定アセスメント」を2月1日に実施する運びとなりました。ペーパーテストとビジネスゲームの2つの側面から、「働く力」を細かく測定・分析していきます。新事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」のグループ17大学からも参加者を募ります。

- ◆ 編集後記：2013年1月12日（土）に、催事販売型インターンシップがキックオフされました。参加学生は、連携7大学（昭和女子大学・女子美術大学・東京家政大学・明治学院大学・目白大学・東京家政大学短期大学部・法政大学）におよび、多彩な顔ぶれとなりました。それぞれの特徴を活かしながら、アイデアを出し合っています。活発なグループディスカッションの様子を見ていますと、今後の活動が大いに期待され、3月にはどんな店舗ができていくのかと、今からとても楽しみです。◀ 事務局スタッフ：矢野 ▶

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト（事務局：学務部教育支援課）

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム